



110年の気概

～しなやかなビジネスを目指して～

北海道函館商業高等学校
校長

難波 繁之

かのウォルト・ディズニーが言った「ディズニーランドはいつまでも未完成である。現状維持では、後退するばかりである。」つまり、進化し続けるのがディズニーの本分である。

進化とは「事物が進歩して、よりすぐれたものや複雑なものになること」である。しかし、ディズニーは少し違うと感じた。それは何か？ディズニーの進化は「絶えず進歩して、よりすぐれたものになっている」のは的を射たことではあるが、「複雑なものになる」は違う。つまり、ディズニーは毎日が進歩しているが、決して複雑化はしていない。むしろ、ロジックは単純化されており、それは「すべてはお客様のために」というワンフレーズである。私はそれを来場者の全ての要求にフレキシブルに対応できるシステムであり「しなやかなビジネス」と呼びたい。

TDLに従事している人を「キャスト」と呼んでいる。そのキャストが素晴らしい。アトラクション担当、売店担当、特にこの頃はお掃除担当が有名である。ディズニーと言えば「ゴミが落ちていない」清潔な環境下で、まさに「別世界」に身を委ねることができる。その主役であるカスタードリアル・キャストが今、旬だ！多芸の持ち主が多く、多彩なパフォーマンスを見せてくれる。ある評論家が言った「私がTDLに行く理由はアトラクションではなく、カスタードリアル・キャストを見に行くためである」

まさにお客に喜んでもらう、楽しんでもらうために一所懸命に働いているのだ。最近の書籍でもディズニーをThe wonderful modelとして取り上げ、「サービスとは？」「人生とは？」への解答と、そして「あなたができることをすべてしてあげなさい。そして、できる限りきれいにしなさい」というスタンダードとなる。

1955年、世界で初めてカリフォルニアにディズニーランドができた。まだ、58年の歴史である。東京ディズニーランドは今年で30周年である。この半世紀の歴史でどれだけの伝説と膨大なサービス精神が生産されたか。

そして、函館商業高校定時制課程は110周年である。ディズニーランドの2倍の歴史。五千数百名の卒業生が日本中で活躍している。きっと、本校の校是である「士魂商才」ごとく、商才溢れながらも清らかな心でしなやかなビジネスをおこない、ディズニーのように、進化しながらも、すべてはお客様のためにを貫き、サービスとは？や人生とは？に答を出しているにちがいないと思う。

在校生も、この110年という悠久の歴史に恥じない、凛たるビジネスマン、敬愛される人間として、人生とは？に君たちとしての解答を出してもらいたい。そして、ディズニーのポリシーである「現状維持ではなく、絶えず進化する人間」として生きていって欲しい。